

事業所名	児童通所支援センター オリーブ 放課後等デイサービス 重心型			支援プログラム	作成日：令和8年3月1日
法人（事業所）理念	より質の高い支援を利用者にする努力はもとより、地域に親しまれ信頼される適正、且つ活力のある施設運営に努め感性豊かな施設運営に努めます。				
支援方針	子どもの発達過程や特性・健康状態及び医療的ニーズを踏まえ安心安全を確保基盤とし多職種・関係機関と連携を図りながら心身への負担軽減を図ります。他の児童と関わりを持つことで人との関り、コミュニケーションを学べる場を提供していきます。また保護者が気兼ねなく相談できる場になるよう努めると共にレスパイトケアの役割も担っていきます。				
営業時間	9時00分 から	18時00分 まで	送迎実施の有無	あり	
	支援内容				
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ● 看護職員等と連携し、日々のバイタル測定（血圧・体温・酸素飽和度）健康観察及び医療的ケア（経管栄養・吸引）を適切に実施し、児童の健康状態の維持及び異常の早期発見に努めます。 ● 利用中に体調の変化がある場合、適切な対処（例：医療機関への受診、保護者への状況の報告など）を行っていきます。また定期健康チェック（身長・体重）や病気予防を徹底していきます。 ● 交通安全や防災訓練を通じて、日常の安全意識を高めるとともに、活動の機会を捉えて、安全教育のロールプレイと実践を行います。 ● リラクゼーションを行いながら心の健康も支援します。また落ち着ける環境を設定し個人の居場所を作る事により情緒の安定を図ります。 ● 季節の野菜などの栽培を行い、食に対する興味関心を引き出しながら食育を実践していきます。口腔内機能・感覚等に配慮し、摂食時の姿勢の調整および自助具等に関する支援や、口腔内のケアやアイシング等を実施していきます。 ● 理学療法士、言語聴覚士、看護師などの医療的な専門職と、児童福祉分野での保育士・児童指導員などの専門職が協力して、子どもの特性に応じて必要な個別や集団での療育を提供していきます。 ● 水分補給や休息時間の確保・生活リズムの安定を図るとともに食事・排泄・衣服の着脱なほ日常生活動作については児童の状態及び発達段階に応じて内容を調整し可能な範囲で主体的な参加を促していきます。 ● 特性に合わせて、パーテーションや視覚的情報（例：文字や絵カード、写真、具体物など）を使用して環境面からのアプローチを実践していきます。 			
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ● 運動や遊びなどの活動を通じて身体の使い方などを学んだり、日常生活に必要な基本動作の習得、関節の拘縮・変形予防、筋力の維持・強化などの支援を実践していきます。 ● 運動・動作が困難な場合、様々な補助用具等の手段を活用し支援していきます。なお、補助用具の申請においては、相談員や地域福祉課、医療施設と連携していきます。 ● 運動を通じて意思の表出・決定を促していきます。またホルモンバランスを整え抵抗力を高めたりストレス緩和を目的としても実践していきます。 ● 特性に合わせて身体機能運動や基本動作運動、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を実施していきます。 ● 五感や運動感覚を使った遊び、リズム遊び、バランス感覚、空間認識、心肺機能、手眼運動、他児との協調等を育み楽しく体を動かしていきます。 ● 専門職が適切に評価を行い、感覚や認知の特性（感覚の過敏や鈍麻）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の提案及び支援を行っていきます。 			
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ● 視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促すために制作活動や感覚遊びを実践していきます。 ● 物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして認知教材を活用し取り組んでいきます。 ● 認知の特性を把握し情報を適切に処理できるような環境調整や支援者の関わり方の指導や調整を行っていきます。 ● 感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動問題に対して事前に環境調整など予防策を講じ、適切な行動の獲得に向けて支援を行っていきます。 ● 繰り返しのかかわりの中で因果関係への気付きを促し、児童の反応に応じた関わりを行うことで、情緒の安定及び不安や不快の軽減を図ります。 			
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ● 表情・視線・発声・身体反応等を丁寧に読み取り個々に応じたコミュニケーション手段（指さし・文字盤）を活用します。 ● 選択場面を意図的に設定し、意思表出の機会を確保するとともに職員間で支援方法を共有し一貫した関わりをお香もとで意思伝達の安定及び拡大を図ります。 ● 口腔マッサージ・バイトブロック・咀嚼訓練・アイシング等を行い口腔機能の維持や向上を行います。 			
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> ● 遊び等を通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを促していく環境調整並びに関わりを実践していきます。 ● 他の児童との遊びや交流を図る事で色々な人間性・社会性を知り、人と人との関わりの中、誰かを「思いやる心」や「敬う気持ち」など豊かな心を育てます。 ● 成功体験の共有や日常的に他者を褒める習慣を通じて、自己肯定感を高め、互いの成長を喜び合う機会を提供します。 ● 集団活動・季節の行事・外出活動を計画的に実施し、社会経験の拡大を図るとともに、活動への参加方法についても児童に応じて調整を行います。 			
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもに関する情報の提供と定期的な支援調整 ● 子育て上の課題の聞きとりと必要な助言 ● 子どもの発達上の課題についての気づきの促しとその後の支援 ● 子どもを支援する輪を広げるための橋渡し ● 相談支援専門員との定期的な支援会議や支援計画の調整 ● 関係者・関係機関の連携による支援体制の構築 ● 家族支援に向けて、個別の面談等の実施 	移行支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 進学・進級・他事業所への移行に際し円滑に適應できるよう事前に関係連携機関と情報共有を行い適切に引継ぎを行います。 ● 家族に対しても必要な情報提供及び相談支援を行い安心して移行期を迎えられるよう支援します。また移行後も必要に応じて関係連携機関と連携し継続的な支援体制の確保に努めます。 		
地域支援・ 地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育所等の子育て支援機関との連携（保育所等訪問支援、地域療育支援） ● 医療機関、保健所、児童相談所等の専門機関との連携 ● 教育機関の関係者等との連携 ● 自立支援協議会等、地域支援の体制の構築のための会議への出席 ● 個別のケース検討のための会議への出席 ● 児童発達支援等に対する理解促進のため、行事参加など地域交流を行っています。 	職員の質の 向上	<ul style="list-style-type: none"> ● 定期的な研修と教育：研修やケーススタディを通じて、最新の知識と実践的なスキルを学んでいます。 ● フィードバック：定期的なフィードバックを通じて、多角的な視点から職員の成長を支援しています。 ● 継続的な学びの場の提供：勉強会や研修を通して職員が自主的に学び続ける環境を整えています。 ● 職場環境の改善：週1回時間を作り、働きやすい環境の整備を構築する為に話し合う時間を設け、ワークライフバランスの推進に努めています。 ● 専門職（言語聴覚士・理学療法士・看護師・保育士・児童指導員）がそれぞれの分野で情報交換や勉強会を開き、質の向上を目指しています。 		
主な行事等	<ul style="list-style-type: none"> ● 食育活動：季節の野菜等の収穫体験 パケツ稲つくり ● 季節行事：進級を祝う会、夏祭り、デイキャンプ・クッキング、お月見会、ハロウィンパーティー、紅葉ドライブ、クリスマス会、初詣、節分、ひなまつり等の実施 				